

2016年12月期 第1四半期業績概況

(期間:2015年12月21日~2016年3月20日)

《連結決算概要》

(単位:百万円)

	2016年12月期 1Q		2015年12月期 1Q
	実績	前年同期増減額	実績
売上高	26,498	△10,924	37,422
営業利益	△2,949	△150	△2,799
経常利益	△2,674	△154	△2,520
四半期純利益	△2,542	△126	△2,416

《営業概況〔ニッセン〕》

▶ 売上高について

前年実施した大型家具事業からの撤退及びそれに伴うインテリア関連売上の減少、カタログ多頻度発行施策の戦略修正(15年:新春号・春号の2号発行、16年:春号のみの発行)、スペシャルカタログの統廃合、及び前年までの稼働顧客基盤縮小による売上マイナス影響等により、前年同期比で大幅に減少。

▶ 営業利益について

大型家具事業からの撤退、希望退職の募集及び海外事務所の閉鎖等の経営合理化策の実施により物流変動費・固定費は改善。一方、前年までの稼働顧客数の減少に歯止めをかけるべく、幅広い顧客層に対する価値訴求路線の浸透化及び稼働顧客基盤の回復に向けた広告宣伝費及び販売促進費の先行投資の規模拡大等により営業赤字を計上。

＜原価＞

16年春号での7&iマーチャндаイジング手法を取り入れた価値訴求商品の投入等により、正価販売原価率は大幅に改善(-3.2%)。一方、過年度分を含む商品在庫処分及び商品評価損等の原価率悪化影響(3.9%)により、前年同期比で原価率は悪化。
在庫水準は大幅に改善(在庫:15年1Q 185億円⇒16年1Q 97億円)。

＜原価率の差異要因＞

15年1Q原価率	54.9%
正価販売商品での改善	-3.2%
処分売上構成増での悪化	2.6%
商品評価損増での悪化	1.3%
16年1Q原価率	55.5%

＜FF費(物流変動費等)＞

経営合理化策の一環として前年行った大型家具事業からの撤退等により、前年同期比でFF費率は改善(FF費率:15年1Q 17.9% ⇒16年1Q 15.5%)。

＜販売固定費＞

カタログ発行部数の適正化、ネットシフトに向けたカタログ薄型化等により、前年同期比で販売固定費17億円の圧縮。一方、幅広い顧客層に対する価値訴求路線の浸透化及び稼働顧客基盤の回復に向けて、カタログ以外のプロモーション投資の規模拡大を図ったものの、前年までの稼働顧客基盤縮小による売上影響をカバーしきれず、販売固定費率は悪化(販売固定費率:15年1Q 22.7% ⇒16年1Q 26.7%)。

＜固定費＞

経営合理化策の一環として前年行った早期希望退職・海外事務所閉鎖等により、前年同期比で固定費8.5億円の改善。

引き続き、早期業績回復に向けたMD改革、調達改革、売り場改革等の経営構造改革を継続的かつ積極的に推進していくことで株式会社ニッセンの経営再建を図ってまいります。

詳細につきましては、《2016年12月期1Q決算短信・1Q決算補足資料》をご覧ください。

IRに関するお問い合わせは、下記までお問い合わせください。
株式会社ニッセンホールディングス 広報IR部
TEL : 075-682-2041